

第1回 横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会会議録	
日 時	平成26年9月4日(木) 10時00分～12時00分
開 催 場 所	市庁舎5階 関係機関執務室
出 席 者	小此木 歌藏、川本 守彦、岸井 隆幸、島田 京子、内藤 廣、藤木 幸太、 室田 昌子、廻 洋子、森地 茂、吉田 聡 (10名) ※敬称略
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開(傍聴人12名)
議 題	1 委員長選出及び職務代理者の指名 2 開発基本計画について 3 その他
決 定 事 項	1 森地委員を委員長とする。 2 岸井委員を委員長代理とする。
議 事	<p><u>1 委員長選出及び職務代理者の指名</u></p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> これより議事に入らせていただきます。まずは、委員長選出及び職務代理者の指名でございます。委員会条例第5条第2項の規定により、委員長は委員の互選により選出することとなっております。委員長のご推薦がありましたら、お願いいたします。 <p>【廻委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森地先生を委員長にご推薦したいと思います。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ただ今、森地委員の名前が挙がりましたが、委員の方、いかがでしょうか。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 異議なし。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> それでは、異議が無いようでございますので、森地委員に委員長をお願いしたいと思います。これより先は、委員会条例第5条第3項の規定により、委員長には議長として議事の進行をお願いしたいと思います。また、委員長には、委員会条例第5条4の規定に基づきまして、委員長の職務を代理する委員をご指名いただきますようお願いいたします。それでは、森地委員長、よろしくお願いいたします。 <p>【森地委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山下ふ頭において都市的土地利用を考えるとのことだが、多くのロジスティクス企業が今でも活動しており、交通利便性がよろしくない一方で、ベイブリッジを見渡せるすてきな海岸線もある。基本計画のとりまとめまでよろしく願いいたします。では、委員長代理の指名をさせていただければと思いますが、岸井先生

をお願いしたいと思います。

2 開発基本計画について

【森地委員長】

- ・議事次第に従って進めていきたいと思います。議題2、開発基本計画について、事務局からご説明いただきます。

【事務局】

- ・資料5の説明。

【森地委員長】

- ・はい、どうもありがとうございました。大変膨大な量の資料で、お作りいただくのも大変だったのではないかと思います。残った時間で思う存分ご議論いただきたいと思います。とにかく第1回ですので、どんなところからでも結構ですので、ご意見いただければと思います。

【藤木委員】

- ・今、膨大な量の資料で、相当説明するのに長くかかりましたけれども、私、この山下ふ頭で物流関係の仕事について長いわけですが、まずこの場所を商業化することにかけては、ほぼ20年かけてやっと現実化してきたわけで、ここで物流を見ていただくとわかるのですが、山下ふ頭が物流機能としては本当に情けない状態にあるわけですね。これはもう限度ということですから、何とかするという事なのですが、とはいえ、物流の方から見ると重要なところもありますので、この部分の機能に支障をきたさないように、まずは、ここで仕事をしている人たちのきちんと移転先を見つけていただくということから始めていただきたいと思います。この後につきましては、みなさんのご意見を頂戴して、世界的に見て恥ずかしくないような施設づくりをしていただきたい。最近、これはちょっと余談になりますが、IRの法案が通る通らないでだいぶ山下を傾注する方が多いのですけれども、むしろそういうことで浮足立たないということですね。私の個人的意見ですがIRそのものはカジノ法案と言われてはいますが、カジノを持ってくることで、そんなにいきなり良くなることはないと思います。むしろそのことに浮足立って先走やな開発に走るということに、我々は気をつけていかなければいけないと、そういうふう感じておりますので、今日ご発言の委員の方にもその辺のご協力を賜りたいと思います。以上です。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。どうぞ。

【小此木委員】

- ・今、横浜港はまさにベイブリッジから南側で物流機能を担っています。ですから、インナーハーバー、ベイブリッジから北側はこれから観光ゾーンとして発展していくということは横浜港の宿命のような、これからの運命だと思いますから、それはそれで私も歓迎いたしますけれども、この資料にございましたように、昭和

38年から今日まで、ある意味では戦後の経済成長期の物流というものを長年の間支えてきて、それらの先輩の魂が詰まっているところです。それから実際まだ数が減ったとはいえ、そこで仕事に従事しているところもあるし、新しい施設を建てた会社もあります。ですから移転等を含めて、やはり開発は将来に向けて大事なことではありますけれども、引き際の重要性といたしますか、そういった働いている人への配慮を十分にさせて頂いて、開発進めて頂きたいというふうに思います。私もスパークリングトワイライト等を通じて、この場所が少しでも人が集まるような努力をしていきたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。どうぞ。

【川本委員】

- ・今、お話にもありましたが、やはりベイブリッジが出来たことによって、内港・外港それぞれに、その前は経済港・観光港といった機能が混在していたものが、完璧に内港が観光港になります。外港が経済港になる。その中でも唯一内港でもこの山下ふ頭、歴史的な背景が、今、色々お話にありましたけれども、そういったものを十二分に尊重して、やはりこの地域、宝ですから責任を持った形でこの委員会の中でもご相談が出来ればということでございますので、色々の観点から皆さんご専門の立場でご意見を賜ればということで、皆さんよろしく願いします。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。逆に質問なのですがベイブリッジが出来て、大型船はみな外側、実際は先程ご説明があったようにコンテナをここまで持ってきて、色々な荷扱いをしていらっしゃるんですよね。それは外側に一緒にそういうスペースを用意できなかったからなのですか。あるいは、すでに投資してあるからそう簡単に動かせないということなのか。

【小此木委員】

- ・こういった言い方は適切かどうかわかりませんが、大黒ふ頭が大体横浜港の保管機能の6割を担っていますけれども、南本牧とか本牧で降ろした貨物を主には大黒ふ頭に運んでそこで荷扱いをするわけでございますけれども、山下ふ頭の倉庫というのは昭和38年に出来た倉庫ですから、かなり償却も終わって、資産価値の低い貨物を入れているというような状況で、むしろ大黒ふ頭はみなとみらいの計画で出来た倉庫ですから、大体平成2年から平成5、6年、7年に建てた倉庫で、まだ20年ぐらいしか経っていませんから、まだ償却が終わっていない状態で、かなり付加価値の高い物を入れなければならないということでございますから、そういった意味で大黒ふ頭や本牧ふ頭の倉庫の補完をしている場所が山下ふ頭だということです。実際には山下ふ頭の中には全く貨物を入れている倉庫会社もあります。それは昭和38年に建て、耐震性に問題があるということ

で、使っていない倉庫もありました。というような状況だと思います。

【森地委員長】

- ・横持ちコストというのはそんなには重視しないのですか。

【小此木委員】

- ・外へ持って行くよりはそこでやるしかない、野積みにしてもいいけど野積みよりは屋内に入れておいた方がよいのではないか、という貨物が山下ふ頭で取り扱われているのではと私は思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。羽田空港の貨物ターミナルが当然国内にデリバリーするのに便利だと決まっていると思いきや、あそこはガラガラで、みんなトラックで成田へ持って行っている。成田から各地へ、でしょうかね。信じがたいのだけれども、すでに施設があるからなんですかね。ありがとうございます。何か事務局の方から補足ありますか？どうぞほかの観点からも。

【廻委員】

- ・20年以上前に、横浜市には大変お世話になりました。92年か93年だったと思いますが、当時の勤務先の所有する外国籍の帆装客船が横浜港に寄港した際に、3日くらいこちらで披露イベントを行い、お世話になったのです。市民の方やマスコミの方、業界の方とか、そういう皆さんをお招きし、披露したのですが、船の背が高くてベイブリッジの下を通らないことがわかりました。コンピュータ制御の帆船でしたがマストが高く、60何メートルだと思います。ベイブリッジは55mですよ。港湾局の人に半分に折って入れないかとか、言われたのですが、如何にせん、通過不能でした。横浜市は、大黒ふ頭に受け入れのプレハブ施設を建てていただきました。当時はバブルでしたから、気前がよかったです。現在ではあり得ないことです。大黒ふ頭で船の披露パーティーやイベントを行ったのです。そのとき思いましたが、ベイブリッジを境に外と内に分かれるということです。現在客船はどんどん大きくなっているのです。コストパフォーマンスが良いものですから。昔に比べると20年前は2-3万トン中心であったものが、現在は10万トンざらで、20万トンという客船もあります。しかし日本のあちこちの港に橋が架かり、大型客船が寄港できない港が増えています。そんな体験があるのですが、そのような状況の中で、横浜港全体の将来を見据えた場合、それぞれの埠頭にどの機能を割り振っていかうとお考えなのか、教えていただきたいのですが。また、山下ふ頭でお仕事をしていらっしゃる方がいらっしゃるようですが、その方たちを全員他所の地域に移動していただくとする、どれだけの費用や年月がかかるのでしょうか。またどれくらいの土地があるのでしょうか。人流拠点と物流拠点という役割を同時に担うことはなかなか容易ではないと思います。山下ふ頭の開発には、そこでお仕事していらっしゃる方の手当てをしなければいけませんので、その辺を少し教えていただければと思います。

【森地委員長】

- ・ どうもありがとうございました。

【事務局】

- ・ 先程、地元の関係もあったので、そこを含めて廻先生の質問にお答えしたいと思います。説明の中でもありましたが、47ha の中に倉庫や上屋などの建物がありまして、市のものであったり、民間のものであったりということで、当然こういった方々のご理解の上で、この再開発の土地利用の転換を進めていくということです。6月下旬に横浜市として、いわゆるインナーハーバーの今後、山下ふ頭の土地利用をどういうふうに展開していくのか、ということについて権利者の方に集まってお話し説明をさせていただきました。これを踏まえて、各社の今後の事業展開のお考えがいろいろとあると思いますので、お考えを聞きながら、私どもとしてスケジュールを考えていかなければいけないし、進め方を考えていく、こういうところで現在権利者すべて個別に面談をして、ご意向を受けたまわっているところです。

そういったことを踏まえて、市としての考えも加えて調整させていただき、具体的に進めていこうということが現在の地元対応の状況です。そういった中で現在横浜市の基本的な考え方としては、資料の中でスケジュールについて、2ページの右下のところに事業の目標ということで記載しています。平成32年(2020年)の一部供用を目指していくという考え方を持っています。それからもうひとつ全体については、港湾計画の中で30年代後半(2025年)に全体としての再開発といいますか、新たな土地利用の展開を念頭に考えています。具体的に申しあげますと、一部供用から少し段階的な開発になっていくのではないかとこの考え方を持っています。

これは全部の開発を行うためには、先程先生方からご指摘がありましたように、地元のご理解を得ながら、ベイブリッジの外側の方へ移転していただく。一度にできればいいのですが、今現在、まだ十分な面積が確保できていないところがあります。また一方、南本牧ふ頭などでは現在埋め立てを進めておきまして、そういったものはある程度土地ができるのに一定の時間がかかってきます。そういったことを踏まえて全部に応えられる面積は、30年代後半には確保できるものというふうに考えています。

従いまして、一部供用としては先程副市長の方から話がありましたように、東京オリンピックの時に、非常に多くの海外からのお客様を迎える機会だということで、このインナーハーバーの新たな拠点から情報発信ができるように、現在操業されている事業者の皆様のご理解を得ながら、一部供用エリアをどう設定できるかということをご希望の事業者の皆様と相談させていただきながら考えていきたいと思っています。

【森地委員長】

- ・供用というのは土地利用が埋まっているということなのか、土地が空いているということなのか。

【事務局】

- ・一部は今の物流機能が、都市的な土地利用として、この 47ha の一部で展開されていくというイメージを、私どもは持っています。

【森地委員長】

- ・最終的には具体的に供用というのは現在の事業者ではなくて、どなたかが更地になって利用してくださいという状態なのか、更地になった状態を言っているのか。

【事務局】

- ・その土地利用については、私どもとしては大きな意味での PPP といいますか、官民連携をやっていく必要があるのだろうと思っていまして、更地にした後で、具体的に上物の整備まで含めてこのスケジュールを考えています。

【川本委員】

- ・具体的に時間軸でいう平成 32 年（2020 年）というのは東京オリンピック・パラリンピックがあり、これはもう動かしようのない事実で、そういった観点から入っていったここでいう平成 32 年一部供用という表現の話をしていますが、先程来の話ではないですが、IR 法案の関係でいくともう思いがぐっとなってしまいうというふうにとれると思う。民間ですが、というのもありますし、それとこの検討委員会で山下ふ頭の在り方の中でいう一部供用、その辺がミスマッチしないようにうまくやっていかないと、これは現在一番記者の方達がいろいろな注目していて、時期だけが出ていかないように、というふうに配慮いただければと思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。この段階をどういうふうにか考えるかという時に、一つには先程ありました現在の土地利用を合意していただいて変えていくのにかかる時間。そして逆に新しく立地するマーケットがどういう段階であるかという話。それからもちろん移転用地の話、それから多くの場合横浜市自身の予算がなくて進まないということもありますし、それからあまり同じ時期に開発するよりはそれぞれの時代のニーズに合って、いろいろな機能を集積した方が魅力的になるという話もありますし、或いは横浜市からインナーハーバーにまだ米軍用地とかがありますが、結構キーになるところですから、早々に全部なくなって、その後何もできないようでは困りますし、というようにいろいろな観点があるので是非整理しておいていただいて、どういう観点からどのタイミングを考えているかという話をクリアにしてほしいと思います。では、どうぞ。

【島田委員】

- ・MMなど内港の地区がうまく補完しあいながら相乗効果を上るとともに、新しいコンセプトを考える必要があります。それは先程説明があったと思いますが、宿泊滞在型のリゾート都市にするということではないかと思います。その場合、横浜や日本国内からの集客を主たる目的とするというよりも、横浜のブランドやこの臨海都市の特徴を踏まえると、国際的なリゾート都市と位置付けるほうがいいのではと思います。IR法との関係だけではなく、やはり文化・芸術、高級ホテル、フィッシャーマンズワープのような港にある新しい食文化施設のある国際的な滞在型臨海リゾート都市として検討しても良いのではないのでしょうか。また、景観としては、山下ふ頭を海側から見たランドマークが必要です。もしそういう都市を目指すのならば、9ページの右下にあります他都市の状況ということで国内の事例が整理してありますが、是非この中に、例えばシンガポールなどの臨海リゾート都市など海外の事例や、魅力的な国内のウォーターフロント都市などを加えて調査し、それぞれのメリット・デメリットなどを比較検討しながら検討を進めていく必要があるのではないかと思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございました。それでは次の方どうぞ。

【室田委員】

- ・今の島田委員のお話に関連してなのですが、今後の方向性というものを考えた場合、資料の最後のところに「世界に誇るハーバーリゾートの形成」ということですが、私も今後のことを考えた場合にはアジアの中での1つの素晴らしい観光拠点に取り組むのではないかと考えています。9ページのところなのですが、横浜市の魅力の理由を拝見すると、「都市景観」が1位、2位が「街並みが美しい」、3位が「自然景観が魅力的」というふうになっていて、どれも景観のことが書かれています。都市景観も街並みも類似していると思いますので、横浜の魅力には偏りがあり、多様性が少ないような感じがします。一方、自然景観となると、どこのことを言っているのか記載していないためわからないと思いました。求められる街の魅力ということは、どういうことかということなのですが、海外の来街者、観光客にとっての街の魅力についてはいろいろな分析を既にされていると思いますので、歴史や文化があるとか、学びの場があるとか、遊びがあるとかショッピング、商業といった場所というものを集積する利便性とか、安全、快適など、いろいろたくさん既に示されていると思います。そういったことと照らし合わせて、横浜市がどういうふうに見られているのかということ进行分析をすることが必要ではないかということだと思います。先程申し上げたように街を来街者にとっての魅力という様々な観点から見て、逆にいうと横浜市は何が不足しているのかを少し見ていくと、今後の方向性の中で、横浜市が今後目指すべきもの、どのよ

うなものが現在必要で、どのようなものが不足しているのか、欠けているのかを把握して、それを山下ふ頭の中で、何がその中のものとして今後できていけるのか、或いはこれは少し無理など、いろいろとあると思いますので、その辺を少し整理をして、そして今段階的という話がありましたが、その段階的という中で何を一番最初に、立地とかもどこにできるのかということも含めて、どんな機能を最初に配置するかを是非整理していただきたいと思います。

【森地委員長】

- ・どうもありがとうございました。それではどうぞ。

【小此木委員】

- ・先程私ども倉庫の山下ふ頭についての使い方について申し上げたのですが、少し言葉が足りなかった部分がありますので申し上げますと、付加価値のないものと申し上げましたが、当時昭和 38 年に建てた倉庫ですから、新たにそれを建替えてまたそこで倉庫としてやっていこうという方もいらっしゃった。現に数年前に新しい倉庫を建てたというのがあります。これは外港とかに比べてやはり消費地が非常に近い場所にありますので、それなりに需要があるにはあるのです。ですから配送センターあるのですが、近い将来ベイブリッジの内側も観光施設になったというようなことで、ためらっていて投資ができなかったという業者もかなり私はいると思いますので、全く機能しない場所なのかということとそうでもない。まだ価値のある場所だということを前提に、もし開発をするならそれを十分補って、余りあるほどの画期的な開発をしてもらいたいというのが、私どもの倉庫業界では考え方かなと思っていますので、ご理解いただきたいと思います。

【森地委員長】

- ・どうもありがとうございました。奈良県にはホテルが建たないのです。結局知事が一生懸命誘致をするのですが、ビジネスがないところに大きなホテルは無理だと、観光客だけではと。横浜港の外側に外資系の企業がありますよね。こっち側はどうなのか。結局シンガポール、シドニー、サンフランシスコとか思い浮かぶところにみなさん 1 回は行っていると思いますが、何回も行くかということとそうでもない。唯一シンガポールだけが島の方に本当の会員リゾート、関係者のリゾートがある。サンフランシスコも外側にはありますが。そういう意味で最新リゾートですごく人が来て何度も来てくれる、そういうもののコンセプトは一体何なのかという話が恐らくポイントだろうと考えられます。シンガポールは、すごくいいという人はいるのですが、多くの方はあまり評価していない。奇抜なものがあったり、動物園とかがあったり、ビルができたりするが、歴史はほとんど感じられない。そういうことと比べて横浜はどうかというと、実は自然景観はどういわれて、山下公園、港の見える丘公園からこの一帯の丘陵地、もともとの顔ですが、だんだんつぶれてきました。スカイラインもだんだんつぶれてきた。何を魅力として作り出すのかが、一番ポイントだと思います。それから先程藤木さん

からお話があったように、カジノなどは、私はヘルシンキの駅の前にポコッと小さなビルが1つあるだけで、誰もそんなところに行きたくないような、ロンドンでもそうですね。みなさんラスベガスをイメージしているのですが、ラスベガスのにぎわいはお金のない人たちがワーッと来ただけで、超一流の観光地ではないですよ。ですから横浜でもしIRをやるとしたら横浜だからこそ、他と全然違うコンセプトが出せるのかと、こういう話が是非必要だと思います。それではどうぞ。

【廻委員】

- ・今、森地先生のおっしゃった通りだと思うのです。ある施設を建てた時に年間にどのくらいの人に来てもらって、一人いくらぐらい使ってもらわないと見合わないかということを先に考える必要があります。例えば東京ディズニーリゾートは年間3,000万人来るわけですよ。それで大体8,000円くらい落としているのですかね。3,000万人の内、1年に3回、4回も訪問するリピーターもいます。私の学生だと5回も行っている例があります。そういったリピートビジネスを確立させ、尚且つ、年間ほぼ毎日朝8時～夜10時までの14時間も開いている施設です。USJも今度ハリーポッターを導入しますが、しょっちゅうアトラクションの中身を変えているわけですね。アトラクションを入れ替えたり、季節ごとにテーマを変えたり、何年かごとにリニューアルしたり、新しいキャラクターを入れたり、しょっちゅう生き物のように変えていて、飽きさせない運営で集客しています。ドンとある建物や施設ができればそこは反映するということがほど簡単ではないのです。ですから先程藤木委員がおっしゃったように、あまり焦って浮足立って、これでいいんじゃないかとやってしまうと後悔することになると思います。その辺は結構慎重にやっていかないと、2020年のオリンピックが1つの目安ではありますが、あまりこの時期に拘泥することはないのではないかなと思います。1つのポイントではありますが、競技場建設ではないので、何が何でもそこを目指さなくても、しっかり先を見通して確に集客できる施設を創らないと不安です。

【森地委員長】

- ・どうぞ。

【岸井委員】

- ・資料10ページの絵をご覧いただきながらお話ししたいのですが、現在の土地利用の状況が書いてあって、先程来、段階的整備として2020年には部分供用を目指したいという話なんですけど、2020年とはもう6年しかなく、しかも誘致を考えると公平・透明性を持った手続きで導入機能を整理していくという、実はこれはプログラムとしてかなり厳しいスケジュールをしっかりとっておかないとできません。どのようなものをやるのかについても皆さんの指摘にもあり、土地がまとまるのかまとまらないのかということが1番のポイントで、ここ

で見ると公共のものの土地があるところと、民間の方の土地がどのくらいどこにあって、その整理がどこまでできるのかということ、ある程度の段階では決めないといけません。一方、そうはいっても出入り口は1個しかないので、他のところは貨物が動いていると、なのにそれらの交通を一緒になって使い分けるのは中々辛いものがあるので、当然そうなるともう1本他に道があるだろう。そうなるとおのずと使えそうな場所も決まってくる。そうなのですが、問題はそういうところの受け皿になる反対側のところで、ここで言うマリントワー前あたりですが、この辺りの情報について少し整理していただきたい。それと山下公園とどうやってつなげられるかという問題がまずあって、自ずとそこからくる動線が決まっていく。将来的な全体像と部分的な供用が違うわけにはいかないですから、全体のネットワークについて早めに整理する必要があるので、恐らくその辺から検討すればよいのではないのかなと思いました。それからもう1点は、今度は11ページの図を見ていただくと、この新山下ランプと描いてある位置が、今回開発の対象になっている山下ふ頭の正面にあるという状況になっていまして、今後の動きについても教えていただきたい。ここはいったいこれからどうなるのか、というようなことが大変大事だと思いますので、その辺の山下ふ頭の南側部分の状況と将来の展開を見ておくことが必要だと思います。その二つを見ながら、何か将来の土地利用の構想とその交通の体系を描きながら、2020年までには恐らくかなり早い段階でどこまでやるかということを決めないといい相手も決まらないし、結構しんどいのではないかという気がします。

【森地委員長】

・ありがとうございました。どうぞ。

【事務局】

・先程スケジュールのことで中期計画の説明をさせていただいて、言葉が強かったかもしれませんが、全体の計画を考える中で一定の目安を持たないといけないと考えております。横浜市では、山下ふ頭に限ったことではありませんが、2020年というのを国内外からの横浜に来る多くのお客様をお迎えするチャンスだと考えていますので、ここまでに何ができるかというのを、1つの目安として我々は考えていきたいと思っています。いずれにしても先程から指摘されているように、やはり現在操業されている方々がおられるわけで、そういった方々の操業環境をどういうふうに維持していくのか、移行していくのかということと、今岸井先生からもありましたが、動線が錯綜しないように適切な確保ができるかどうか、これに併せて当然考えなければならないと思っています。そういう意味で、個別の面談の中でいろいろ、事業者のみなさまからの今後の事業展開の考えを聞き、無理のない形でどういうことができるのか、更には動線としてどういうことが考えられるのか、そういったことを現在まさに一生懸命やっている状況なので、そこら辺についてはある程度情報を整理した上で、また当委員会でご説明さ

せていただければと思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございました。どうぞ。

【吉田委員】

- ・私の専門がエネルギーやインフラなので、そちらの面からお話しさせていただきます。先程の分析の中で「弱み」というところで、インフラがまだ未整備ということで、下水道、或いは都市ガス等が未整備で、それを数年後の2020年というところまでに整備するということは、かなり厳しい印象を持っています。それと、世界に誇るハーバーリゾートというのが大きな目標なのですが、世界に誇るといったときに、エネルギーの話でいうと、省エネとか今話題の地球環境問題を意識した低炭素というものがキーワードになってくるかと思いますが、このエリアの入り口が限られているというような地形的な特徴や制約を考えると、インフラを単純化するだけではなく自立型のシステムというものも合わせて作っていく必要があるのではないかと考えます。また、2020年というのがまず第一の目標かと思いますが、2020年はかなり近い将来という印象で、東京オリンピックもありますので、我が国の省エネ技術とかいろいろな技術を世界に発信するいいチャンスではあると思いますが、単なる見本市として終わってしまわないようにしなければいけないということと、先程段階的な整備になっていくだろうということなので、最初入ったシステムが最終的な形にどう納まっていくのかということも含めて、きちんと計画しないといけないのではないかと思います。以上です。

【森地委員長】

- ・ありがとうございました。どうぞ。

【藤木委員】

- ・今この会の目的がまず開発の基本計画を作るということなので、先程からお話があったように、物流機能に移すとかそういう話ははっきり言ってなくていいのではないかと思います。それは移すのは当たり前で、要するにキャンパスができたところにどういうものを作るかということが、主題だと思います。その点で一言申し上げたいのは、岸井先生が指摘された山下ふ頭の対岸にある新山下はどうなるのかということなのです。それを考えた場合に、現在横浜市全体として考えているのは、ベイブリッジより内側のコアをインナーハーバーと称していますが、このインナーハーバー全体で横浜港をどうしていくのかと、それもその物流ではなく人流で良くしていくかということをお聞きしているわけで、ですから委員の方がお考えになるときは山下ふ頭単体で考えないで、インナーハーバー、これは東神奈川地区とか接続されている瑞穂地区だとかいろいろあります。こういうところを今後どういうふうにしていくかによって山下ふ頭の位置づけということも変わってくるわけで、是非そういう総合的な見方をさせていただきたいと思います。

【森地委員長】

- ありがとうございます。基本計画の最終的なイメージを、今日ではなくていいのですが、こういうものまでやります、ゾーニングはやるんでしょうね、それから先程の段階的に何とか、多分これだけは守ってほしいというキーコンセプトとかで、はっきりこういうものがある、そのイメージをどこかでは提示した方が良くと思います。逆に今日はそれをどのような格好にするのかという観点でお話しいただいた方が良くと思います。この場所だけではないよというのもありますね。そのような意味で基本計画自身のこういうことを入れたいというお考えがあればよいと思います。どうぞ。

【小此木委員】

- 先程森地先生がおっしゃった横浜港のインナーハーバーの魅力というか人を引き付けるものは何なのかというところが、私は一番大事なところではないかというふうに思います。何年前かに、開港 150 周年を前に象の鼻を整備しようということで、私は藤木委員と一緒にその中に入って色々やらせていただいたのですが、今、本当に横浜を代表する非常に景観の良い地区にはなりましたけれども、じゃあ果たして、きれいにはなったものの本当に行きたい場所なのかというと、ちょっとそういう要因に欠けるのではないかと。あそこには食堂の人が集まる施設があるのですが、あそこにみんなが行って、そこでお茶を飲んだり、食事をしたりする気持ちになるのか。あるいはそういう場所になっているのか、というとそうとも言えない。藤木委員も同じ考えだと思いますが、私とその委員になっていたときに期待したのは、折角横浜の港という魅力があるのですから、あそこで小洒落たレストランで、昼下がりにワインでも飲みながらおいしい物を食べるというようなことを期待していたのですが、何か規則があり、どんな条例があるかわかりませんが、未だにそういうような雰囲気にはなっていないですね。ですから街の魅力とか港の魅力とかいうのはただ港があれば良いということではなくて、港をどうやって生かしていくのかということに我々の努力のしようがあって、そこに条例とかの考え方があって、それにつぶされているような感じがしますので、山下ふ頭もそういうふうに整備していくのでしょうかけれども、そういう障害があって障壁になるとしたら問題だなと。象の鼻も含めてどうするか考えていくべきだと私は思います。

【森地委員長】

- これは基本計画の中にいれるような話じゃなくて、ちょっとマニアックな、ずっと考えていることでして、アジアの色々なマーケットを日本の各地に取り込まなくてはいけない。横浜はそんなに地方ではないと。東京も地方ではない。そういうのは北海道。北海道の農水産品というのはアジアでものすごく有名なのです。で、高い。ホタテだとか蟹だとか。ところが北海道は産品を国内の各地に出して

他地域で加工したものを我々が食べている。道中で加工していないのです。約6,000億円分、外へ出していてそれで2兆円以上の加工品を作っている。アジアの中にすごいマーケットがあるのでその6,000億を、6,000億というか、その倍アジアで出せるとしても出さないで、加工して輸出するとそれだけで北海道は地域際収支がプラスになる。ところが何を作ったらいいかわからない。道外に広がった製品達がみんな大都市、日本国内だけを目指している。また、多くの地域では例えば、地元へ行って加工品を買ってみると、防腐剤が入って臭くて食べられないとか、マーケットがないからそういうことになる。気の利いた地域では、産品をeコマースを利用して販売しているところもある。その加工品は相手の上海と北京では味の好みが変わりますよね。というように各国違うから、それに合うものを作らなければならない。だから地域では作れないのです。横浜とか神戸みたいなところは色々な国のレストランがあるから、できればそういうところで何か対策して、あるいは各国の料理人を育成するとかね。何かそういうセンターがどこかにあってもいいかなとそういうことを思っています。これは基本計画と全く関係ないのですが、どちらにしてもこの国際は多分アジア。マーケットが大きいからアジアから投資させる。アジアの人を連れてくるというのは多分間違いのないキーワード。その時に神戸は医療だったですよ。今問題になっているようですが、医療のセンターとしてやっつけていこうと。横浜は何をやっつけていこうかと。それからIRはいいのですが、IRだけではなくて、このところは、面積が大きいですから、ぜひ何種類か、そういうことをやっていただいた方が良くと思います。それから、もう一つはシリコンバレーが出来た時、もう何十年も前、本当に私はびっくりしたのですよ。工場とか倉庫というのはこういうイメージだと思っていたら、行ったら全くの公園でその中に有名な建築家が作った建物がドカッとあるのですが、最近ヨーロッパやアメリカの新しい港なんかはまさにこんな感じのが建っていますよ。建築の技術的な何かがあっても良い。ショーウインドウみたいな恰好で、事務局には市の中の各部でどういうことが出来るか検討してほしいと言っているのですが、出来ることなら各部だけでなく横浜だけではなくて、色々な企業をここへ連れてくる。そういうそのマーケティングを活性化させるためにどんなことを考えるか議論をしていただければ。どうぞ。

【廻委員】

- ・みなさんのお話につながるのですが、私的なことで申し訳ないのですが少しお話しさせてください。私は87年にできたリゾート法に、少し関係しました。リゾート法に基づいて彼方此方にリゾートができましたが、その後廃墟になったようなところが沢山ありまして、あの轍だけは踏みたくないという非常に強い思いがあります。大事なのもちろん土地の利用の仕方が色々あると思いますが、何よりコンセプトが明確であることが重要です。他の地域との違いが明確にコンセプトに打ち出せることが大切です。今、先生がおっしゃられましたけれども、

例えば新しいことを教えるような場所、ここに来れば色々なことを学べる場所、そういうはっきりと打ち出せるようなコンセプトがないと難しい。建物だけいくら綺麗に建てても、一回来たらもういいかなということになって、リピーターがこなければ、成り立ちません。それにある程度、時代に合わせた微調整が出来るようにしておくことが大事です。世の中は今すごいスピードで変わっています。例えば昔はインテリアなども黒っぽい物が流行ったのに今の流行は真っ白ですね。趣味嗜好もだいぶ違ってきている。ですからハード中心にしてしまうと後で変えたいといっても変えられませんから、ある程度柔軟に対応できるようなバッファ一部分を残しておくことが必要だと思いますし、それから長期的視点のマーケティング計画もかかせません。森地先生がおっしゃったように、例えばアジアからのお客さんをここに呼び込むとすると、羽田空港の容量といった交通の問題も出てきます。羽田の容量で、インバウンド客を数多く運んでくるのが可能なのかといった問題です。交通手段をはじめとし、様々な面でマーケティングの長い計画を考えていかなければならない。ソフト面の充実、明確なコンセプトと時代に合わせる柔軟性、マーケティング計画ということも基本計画作成の際に勘案していただければと思います。

【森地委員長】

- こちらがあまりおしゃべりばかりしてはいけないと思いますが、もう一つは段階の話で、ここまではやるけど、ここはまだ倉庫が残っているというイメージではなくて、倉庫は先程空き家があるとおっしゃいましたよね。例えばMM21などにも売れ残った土地は沢山あるわけですよ。売れ残っている土地というのは本当は金利がかかっているのですが、実際としてはタダなのです。これはタダで建物もタダ。そこで何かチャレンジをするような、そういう段階でリスクをあまり背負わなくて、すんなりできるようなそんな使い方が段階であるかもしれない。それをこの人が使いたいのだというようなことの集積にしたいわけです。こういうコンセプトでみんなアジアからも日本からも来て、ここでやってみませんかかっていうような恰好でやると、それが一つの拠点になって定着するような、そういう内容が出るかどうかですね。

【島田委員】

- 先ほどの倉庫の再利用に関するのですが、コンテンポラリーアートの分野では、美術館のような作品の設置上の制約のある施設では展示が不可能な作品がたくさんあります。海外では、ヴェネチアなどの欧米の他にも、最近ではアジアにも、そのようなコンテンポラリーアート作品を日常的に展示できる施設として、倉庫の再利用事例は多く存在しています。山下ふ頭の倉庫には、少し手を加えれば再利用可能なものもあると思うのです。もう一つは廻先生もおっしゃったように、人々の価値観も経済動向も変化が激しい時代にあっては、立派な建物よりも、ハードもソフトも時代に合わせて変えられるような仕組みを作るといった柔軟性が、

継続して運営していく上で重要であることを、私もかつての業務で経験したことがあります。かなり長期的な見通しをもって計画をたて、柔軟な運用と、持続性ある経済効果をあげ続けていかなければならない。立派な器が出来たはいいけど次第に廃れていくというのは一番問題だと思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。どうぞ。

【川本委員】

- ・ある意味では深まった話になってきたと思うのですが、インナーハーバーの中には5地区あります。その中で一応3つというか、国際ビジネス、ホスピタリティ、カルチャーというそういう仕分けをしておりますが、やはり集客であるとかリピート、そういったものを考えるとどうしても同じようなものに走っていつてしまう。今、山下の方で色々お話を検討していったところ、そりゃみなどみらいでも考えていますよ。それは東神奈川の方でも考えている。いやいや、それは関内・関外地区でやってもらいたい。そういうことになってしまいますとまた、これはおかしい話ですけども、同じような根拠が出てきて、それは横浜全体の本来であればポテンシャルを上げなければならないのに、かえって下げるような効果になりかねないというところもあるので、その辺は逆にこれを進めると同時に他地区が今まで色々な総合計画をまとめて来て燃焼させている、具体化させている。どういうふうな動きをしてきたのか的確に絶えず総合的に判断をしていかないと、かえって今回特に2020年の供用開始などということも変な形になってしまうと、他の地区にも変な影響を起しかねないので、その辺は十二分に配慮していただくべきことだと思います。

【森地委員長】

- ・多分、先程のアジアの話をしましたけれども、シンガポールは、自分だけ良くなるという、そういうコンセプトでどこの国でも来てという感じなのです。アジアを全体的に何とかしようという気はさらさらしない。ここ横浜にアジアが来るときは横浜だけでなくてアジアの未来に貢献したい。してあげるではないかもしれませんが、ただの施設でもそういうところに集まることに意義があるということで。

【藤木委員】

- ・ちょっと一つだけ。どういうターゲットが集客のターゲットになるか。カジノの勉強をしたら、マカオとか流行っていますね。とっても。実際に潰れているカジノもあるわけです。例えばウォーカーヒルとか韓国の。これは今全然だめですし、それでシンガポールの場合カジノはあるけれども基本的にはカジノ中心で考えていなくて、むしろその周りのアメニティがありますよね。色々な。これを中心に考えて、そこにたまたまカジノを入れたらはやってしまった。こういうだけの話で、横浜の場合、他の色々な開発を見ますと、みんな言い方が悪いですが

ローエンドの人たちを相手にやっているわけです。公園を造ったりですね。それでそこにホームレスが来ちゃったりして困っていると。むしろハイエンドの人たちを、やはり良い設えのものを造らなければいけないと思うのです。今、カジノの話が出ましたけれども、カジノもなぜ潰れるかというところ、ローエンドな、要するにローローラーですよ。これが来るところは全部ダメだと。やはりハイローラー、1億円以上使うような、これが来なければダメですね。例えばマカオの場合、平均滞在時間、これはハイローラーの人は、25時間だそうです。ローローラーの人たちは、長くただらやって100ドルしかチップを買わないとか、それがなくなったら辞める。こういう人がいくら来てもカジノは儲からないと。ですから今、中国でマネーロンダリングの人たちが来てその人たちが25時間ぶっ続けでやって、カジノ側はむしろ25時間やる人には一番いい部屋を提供しているわけです。タダで。そういう人たちは部屋に泊まらないそうですよ。25時間ずっとその現場にいて、そこで何か食べて、その横のソファで仮眠してそれで帰ってしまうと。ですから何が言いたいかというところ、結局どんな人に来てもらいたいかという話がありましたので、これは必ずしも沢山くれば良いというわけではなくて、やはりハイローラーの人、ハイエンドの人たちを呼び込めるような、そういうことも考えなければいけないのかなというように思います。

【森地委員長】

- ・はい。

【室田委員】

- ・今のお話に関連いたしまして、誰がどういう施設を担っていくかということなのですが、これまでの話の展開の仕方として、ウォーターフロントの部分と、大きな拠点的な機能として何を持ってくるかという話が色々と議論されているかと思うのですが、今、国際的な観光ということ考えた時に、もちろん拠点というのは非常に重要。それは絶対に必要だと思うのですが、現在は海外からの観光客も多様化していると思います。そうした場合に多様な方というのは旅行の目的も多様であり、求めるものも多様かと思えます。多様性を求めて、ここならではの、今情報社会ですので、色々なところから情報を収集して、それを自分で見つけ出して探していくというような色々なタイプの方々が外国人の中にはいらっしゃると思います。横浜はそう言ってみればウォーターフロントだけではなくて内陸側の方にも色々な魅力とか、色々な地域や団体ですとか、国際団体であったり、文化団体であったりの方々もいらっしゃると思いますので、そういう意味では奥行を出せるのかなと思います。ウォーターフロントの素晴らしい拠点もあって、奥行きや広がりもあるということが私は良いと思います。奥行的な部分ということでは、市民層の厚さであるとか、様々な多様な面白さがあるというような部分をどういうふうにつなげていって見せられるのかなということも一つ重要なことだと思います。うまく集約されたようなものが拠点の一つとして山下ふ頭にあると

ということで、拠点施設の支援の方法やソフトとしての魅力作りとしてここに盛り込むところかと思えます。

【森地委員長】

- ・ありがとうございます。13 ページを見ていただきたいのですが、写真がありますよね。7番。一番下の欄の真ん中。これが山下公園のどこから見たか、かなり沖よりのところからだと思うのですが、もうちょっと奥の方から見ると倉庫で今何もない。今度港の見える丘公園から見たときに、今は倉庫ばかりですが、ここにビルを造ってしまうと橋が見えなくなる。そういう場所。機能の話と別に、どんなコンセプトでどんな風景にするのかという話も非常に気になるところ。たまたま大さん橋から MM21 を見るとちょうど道路の関係で建物の間に空が見えるのですね。角度によっては建物が重なってしまってあまり面白くない。こんな機能の話とか風景の話を、なるべくたくさん内藤さんにインプットしておいて、コンセプトを考えてもらおうというのが私の魂胆です。では。

【内藤委員】

- ・今日は勉強しに来た感じですので、みなさんの意見を伺っていました。感想なのですが、今週某一流上場企業の社長二人と食事をしなくてはならなかったのですが、もはや話題は 2020 年以後なのですね。2020 年以後をどう過ごすかということが中心的な話題で、オリンピックはそれをどう使ってバネにするかというぐらいで、そのあとどうするかということが、今たぶん色々な主要企業のみなさんの関心事になっている。色々な企業の方に来ていただくとか誘致という話ですが、私は基本は 2020 年以後に何を用意出来るか。そういう話ではないかなというふうに思っています。あとは段階的計画論ですとか、色々な話が出ていましたが、その通りだと思います。短期と中期と長期の計画をごちゃ混ぜにしないでやるべきだと思いますし、先程委員のご発言にありましたが、世の中の変わるスピードがとても速い。我々は情報通信革命のど真ん中を生きているのです。その前提でいうと、最先端のオフィスに賞を差し上げるというのをこの 5 年委員長やっておりますけれども、この 5 年で最先端オフィスがガラガラと変わっているのです。これは情報技術の目覚ましい進化の影響です。森地先生の指揮の下で、岸井先生と一緒に渋谷の都市再生にもかかわっていますけど、不動産ビジネスはもう古いのではないか、という感想を持っています。初期投資とフロアーに入ると容積とのバランスで収支が合って、それで安心している構図ってなんだろうと思っています。どんどんものすごいスピードで変わっていくものと、非常に長期的なビジョンと、それをどうやって折り合いをつけるかということがとても大事だと思います。もう一点、このふ頭の形を眺めていたら、根元のところで折り返すと大体関内駅ぐらいまで来るのですね。だからこれは巨大な計画なのです。既存市街地に匹敵するし、大きさ感からすると大体 1km くらいあって、この大きさというのをどう考えるかというのが大切です。私の経験では、都市的には 300m というの

が物事をまとまって考えるのに良い寸法だと認識しています。そうすると1kmというのはそれを3回足しますので、そのあたりをどうやって考えたら良いのか。もう1点、これが一番大事な点です。豊洲ふ頭というのがありまして、市場が来る場所ですね。あそこも十数年、マスタープランナーとしてやっています。開発の長い年月の間には、思ってもいないことがたくさん起きてきます。リーマンショックがあったり、その都度、計画変更をしていかなければいけない。それに対して都市計画決定をはじめとして、色々行政的な制度というのは堅いわですよ、非常に。ここをどのくらい柔軟に行政側で出来るかというのが、大きな時代に即応した街区が出来るかということになるのだと思います。決めたらそれしか行かないというのではなくて、何回か見直していくような仕組みづくりがあっても良いかなど。この計画をやっているうちに妙に何か物足りないと思うようになりました。あれもふ頭なのですが、東京都も湾奥地区をどうするかみたいなことをやっていたのですが、もう一つ実現性が薄くて、僕らは、なんか陸のことだけやっているような気がしていました。本当に港湾側と都市計画側というか海側が情報を一緒に考えていかなければいけないのではないかと。丘の計画だけだと物足りない。ウォークデッキなんかを造ったとしても1kmも多分歩かない。この計画は「陸の計画」と「海の計画」を同時に合わせて考えると面白いのではないかと。先程も港湾事業というのが話にありましたけど、多分海の利用の仕方も変わって来るだろうし、そうすると僕がいただいた資料で陸のことは解っているのだけれども、同じぐらいの量で海面利用の図があっても良いのではないかと。その海面利用の仕方と陸の計画を合わせて考えていくようにならないかと。折角港湾局が主幹ですから、そういう新しい計画のあり方ってないだろうかとというふうに思います。

【森地委員長】

- ・ありがとうございました。どうぞ。

【岸井委員】

- ・先程来みなさんが議論されている様々な視点とか、今おっしゃった柔軟な取組をやるための仕組みとか、3ページに様々な制度等の枠組みが書いてあって一番左下のところに横浜市は環境未来都市、国際戦略総合特区、特定都市再生緊急整備地域の指定を受ける全国唯一の都市ですとかいてあるのですが、これがこの地域とちょっと違って、この地区にはこれは来ていない。地域の戦略だとかマスタープランとか考えられると、もう間に合わないことを考えると、毎回言っていますが、横浜の都心部というのはごく一部ではなくて、私は横浜の駅から関内まで全部だと。そのぐらいまで行って大手町とかね。同じ距離、同じスケールなんですね。どこにでも住宅があって、公園があって、というのが横浜の都心の魅力だと思うのですがね。そういう意味ではこの際少し、このエリアは国際戦略特区を広げるんだと、そういうことを書いておかないと後でつけろと言っても書けな

いので。風呂敷を広げておくのが良いのではないかなという気がします。

【森地委員長】

- ・ありがとうございました。あと数分あります。

【藤木委員】

- ・今、内藤委員がおっしゃった海の絵というのは、私は実は海の絵を先に書いているわけで、山下公園の前ですね。昔は修学旅行で来た子供たちが、山下公園に立つと海を見ると船がいっぱいたのです。今、山下公園から海を見ると船が何もいない。従来はあの前で荷役やっている光景が、見えたり色々なことがあったのですが、今はせいぜいロイヤルウイングですとか、マリニルージュですとか、そのような物しか見えない。今度の開発にあたる山下ふ頭は、山下公園から海を見るとちょうど右手から出ているふ頭なんですね。私は湾の前の水面をどうにか使わなければならないだろうということで、実はモナコだとか、ニースだとか、メガヨットがありますね。あのメガヨットの巨大な係留施設をあそこへ誘致して、そうするとそこは不夜城のように夜通し中、船にライトがついてそこに人がいるわけですね。最近の開発を見ていますと、昼間人が遊びに来るけれど夜来ない。カジノは夜来ますけれども、海に出て陸を見た美しさといいますか、みなとみらいなんて本当にそうなのですが、海から見ると夕方とっても良い景観なんですね。ですから、まず海を使うには水上交通ですね。香港のようにとにかくジャンクに浸っていると、そういう水面利用をしていくと、その周域にある地域は全部交通利便性の良いところになるわけです。むしろ電車だとか、バスだとかタクシーだけ考えていると、とっても海って遠いところなものですから。やはり海からのアクセスをまず先行させていけば、全ての水際線が一番利便性の良いところになりますので、そういう意味では今、マリーナと言いますと、非常に一般的なのですが、よく言うのですが郊外型マリーナと都会型マリーナの違いというのはみなさんあまりご存じでないようで、郊外型マリーナ、例えばこの辺りで言うとシーボニアだとか葉山マリーナ、逗子マリーナ。こういうところはお天道様が出たらみんな引き返してくるわけです。お天道様が沈む前に、はい、みんな帰ってくださいよ。というのが郊外型マリーナですけれども、都会型マリーナというのはニューヨークとかもそうですけど、日が落ちてからそこにみんな人が集まって、そこで一杯飲みながら船上の風景を楽しむと。こういうところがまず水面から出てきて、そうすると実はこの山下ふ頭に、色々な物を造ってしまったら、その海上で動く物の補完する業務をやるところが何もなくなってしまいます。ですから今、内藤委員から大変良いご指摘をいただいたので、是非海の方面も書いていただいて、それを補完する施設は、ここになければいけない。こういうものを是非考えていただきたいなと思います。

	<p>【森地委員長】</p> <p>・ありがとうございます。最後なのですが、アジアの都市・大都市は東京級の1.5倍以上、ほとんどのものが一点集中でもたないのです。東京も今そうで、副都心をなんとか育てたい。ましてアジアはバンコク、ジャカルタ、マニラみんなそうなっているのですが、そういう人たちに対しては、横浜は世界でまれなる副都心としてこんなに成功していますよという情報は是非発信したい。そうすると彼らは見に来るはず。あまりそういうことは言いたくないでしょうけど、アジアに売るときはその方が売りとしてはうまくいくと思います。是非お願いしたい。すいません。ちょっと拡散的になっていきましたが、先程も言いましたように1回目ですから、なるべく話を広げておいていただいてあと事務局が2回目の用意をするようにしたいと思います。特にまとめる必要もないかと思いますが、物流業との関係ではそれと段階的な感じをどうするのかにつながっているし、IRの話はIRだけではなかなかもたないので、もつIRなのかあるいはもつコンセプトは何かとか、一番奥なのですよね。都心から言うと。そこにはどういうことをすれば良いのかとか、課題を考えると課題だけは一杯あります。むしろこれを積み上げでは多分、答なかなか出ないのでいったん情報をインプットした上で、こういうのはこうだとかいう発想でいくつかの代替案を作るのがいいかなと思います。内藤委員にもいろいろご提案いただければと思いますし、何卒みなさんにも是非こんなのだというアイデアを、またご披露いただければと思います。</p>
資料・特記事項	<p>1 資料</p> <p>(1) 資料1：横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会条例</p> <p>(2) 資料2：諮問書（写）</p> <p>(3) 資料3：横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会 委員名簿</p> <p>(4) 資料4：第1回横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会 座席表</p> <p>(5) 資料5：横浜市山下ふ頭開発基本計画検討委員会資料 第1回</p> <p>(6) 資料6：スケジュール</p> <p>2 特記事項</p> <p>・次回は、10月31日に現地視察を開催予定。詳細は、後日お知らせします。</p>